

第23回日本ホリスティックナーシング研究会 (JHNA)

第8回ベーシックセミナー

平成30年1月20日(土)、日本赤十字看護大学にて第8回ベーシックセミナーが開催されました。約30名の会員が参加され、活気ある勉強会となりました。米国ホワイトプレインズ病院・ホリスティックナースの安井豊子氏から「米国ホリスティックナースとしての私の実践」というテーマでご講演いただき、日本のホリスティックナースが目指す方向性がまた一つ明らかになりました。午後からは、AHNA Core Curriculum for Holistic Nursing 2nd 2013 の翻訳によるプレゼンテーションとディスカッションが行われました。第29章「文化の多様性とケア」を田中久美子氏(訪問看護ステーションなごみ/がん看護専門看護師)に、第32章「エネルギーヒーリング」を宗定水奈子氏(がん・感染症センター都立駒込病院)にご教授いただきました。



参加者からのご報告

「米国ホリスティックナースとしての私の実践」を聴いて

横浜創英大学看護学部 吉江由美子

ホリスティックナーシングの実践について、貴重なお話を伺うことができた。安井氏は、ANHAの上級ホリスティックナースとして、米国ホワイトプレインズ病院でご活躍をされている。病院内で実践されているホリスティックセラピーは、呼吸法やアロマセラピー、ヒーリングタッチなど多種多様である。対象者は患者や家族、病院の職員等の個人に対して行うだけではなく、ヒーリングサークルなど団体で受けることができるクラスも定期的に開催されている。ホワイトプレインズ病院でのホリスティックナーシング利用者は年々増加しており、昨年は利用者が4000人を超え、実績が認められ安井氏の他にもう一人増員となったとのことであった。さらに実践のみだけではなく、セラピーの結果のデータからケアの評価を行い、研究助成金を得たりすることで、日々ケアの質が向上するよう努力をされていることに感嘆した。また、職員や看護師がストレスを感じたときにホリスティックナースを呼ぶ、コード・ラベンダーへの取り組みがあることも大変興味深いものであった。紹介の事例から、どれだけの癒しが対象者や周囲の方々にもたらされたのだろうかと思いを巡らせることができた。安井氏の「ホリスティックナーシングの実践は意図(intention)を持ってケアするといった実にシンプルなことであり、日々継続することが大切である」とのメッセージに感銘を受け、一步前進する勇気を頂いた気持ちになった。

参加者からのご報告

「第29章 文化の多様性とケアを受講して」

郡山看護専門学校看護学科学科長 伊藤明美

「文化とは」を説明されるにあたり、講師の田中先生ご自身の文化についてご紹介があった。カリフォルニア州の大学でRNを取得された先生が、看護学部留学中にアメリカでの生活で受けた「言葉・人種・宗教」でのカルチャーショックについてお話をされ、多民族国家のアメリカでは人種構成の中で「文化ケア」を考える必要性があったことを学ばれたということでした。又、現在活動されている福島県の相馬市でのカルチャーショックについてもお話をされ、アメリカの文化だけではなく、日本の中だけでさえも文化の違いがあることをコミカルに語られました。その中で、田中先生がおっしゃった「日本(アジア)の言語は、未来形がない言語であるが、ヒアリングには適しているのではないかと感じた。」という言葉が耳に残り、そこから日本人の聞く姿勢や「受容的態度」について改めて考える機会となりました。この章では『ホリスティックナースは、文化的事前能力を身につけて、最終的に文化的熟練性を持ってください。』と言っており、その文化的能力とは「例えば病棟で何かあった時に、患者の文化的背景を見定めて交渉プロセスに関わって欲しい。」だから、「常に文化の多様性を学び、研究し、患者中心のケアを考えていかなければならない。」ということである。つまり、日本として考えてみても、患者さんはみんな個性があるので文化の



多様性を理解したうえでケアを提供すべきであるということだが、田中先生は、がん看護専門看護師の立場として、『全人的な痛み（トータルペイン）』を理解して、文化への理解を考えて欲しいと強調されていた。また、「患者の文化に寄り添うということは、『あなたが外国を旅した時に、そういう風にするように患者の文化に合わせてケアしてください。』と書いている。」ことも強調されていた。全人的な理解を基本において文化的に熟練するということは果たして、自分に可能なのであろうかと自問自答する中、外国を旅した時にその国の文化に合わせるということは、イメージしやすく実践できそうなことでした。それぞれ個人々の文化の違いや背景を理解するためにも、ホリスティックナーシング研究会を通して出会う様々な考えを持った様々な立場の人たちとの意見交換の機会を大切にしていきたいと感じました。



参加者からのご報告

第 32 章「エネルギー・ヒーリング」での出会い

新潟大学 定方美恵子

私は新潟の海のそばで日曜日の朝 7 時～8 時まで、仲間たちと気功をしております。今回、エネルギー・ヒーリングについて、宗定水奈子さんの講義がありましたが、日頃の経験からも、容易に理解できるお話が多く、そのよくまとめられた講義を感じしながらお聞きしていました。エネルギーの構造「チャクラ」の項に進んだところで、よく存じ上げている日本人のお写真があることに驚きました。「Hiroshi Motoyama：高度な瞑想ができる師は、瞑想をしない人と比較し、振幅が大きく、チャクラを通して意識的に自分のエネルギーをコントロールできる人がいることを明らかにした」と、宗定さんが訳された解説がありました。本山博先生は「経絡臓器機能測定器」を開発された先生で、約 20 年前に科学研究費の研究で、女性の体質を東洋医学的に評価する手法を探していた時に、「経絡臓器機能測定器」、いかえるとツボとツボを結ぶ経絡の気の流れを測定する器械を紹介していただきました。その後、ご縁は続き、先生の立ち上げられたカリフォルニアの大学院大学を訪ねたり、研究会でお話しさせていただいたりして、人体のエネルギーというものを、私は看護学の立場から健康のために役立てたいという一心で学んでおりました。先生は残念ながら他界なさいましたが、ホリスティックナーシングの教科書の中に、先生の業績が紹介されていることを知り、天国から、「いろんなところでつながっているんだよ」とすべてお見通しのような声が聞こえてくるような気がしました。本山博先生との久しぶりの出会いに感謝したのですが、それよりも、宗定さんの訳の素晴らしさと、また、わかりやすくするために関連する資料を併せて紹介されるという、このレベルの高い講義を、それもさりげなく担当なさっている、その素晴らしさに、こころから感謝をいたします。

TOPICS

2018 年 2 月 3 日、幕張メッセで開かれた第 32 回日本がん看護学会で交流集会を主催しました。日本がん看護学会で交流集会を行うのはこれで 4 回目です。今回のテーマは「ホリスティックナーシングに欠かせないこと」。当日は参加者の一人一人にアロマを身につけてもらいながら、ご自分自身が癒される体験をしていただきました。参加者は約 100 名。「癒されました」という感想をたくさんお聞きすることができ、今回の交流集会も大好評でした。



開催予定

第 24 回日本ホリスティックナーシング研究会 (JHNA)

「看護の調べ、癒し、活かす力 UP↑」

日時：2018 年 9 月 2 日(日)9：50～16:00 (開場 9:30)
場所：佛教大学二条キャンパス 京都二条から徒歩 2 分
内容：[講演]「疲れないように生きるそれが生き方上手」福知山観音寺住職 小藪実英師 [ワークショップ]①ヨガで見つめる心と身体 米澤紗智江氏 ②からだの力 中原今日子氏
【事前申し込み】 会員 5,000 円、非会員 7,000 円 学生会員 3000 円
【問い合わせ先】 日本ホリスティックナーシング研究会事務局
 TEL：03-3409-0722 e-mail：info@jhna.jp



入会のご案内

【会員】本研究会に賛同する医療専門職(看護師、医師、他)、補充・代替医療専門家、及びその学生、企業・施設・団体等

【入会手続き】URL：<http://www.jhna.jp> よりオンラインで入会をお申込ください。

【入会費】3,000 円

【年会費】正会員(看護師または当会役員)7,000 円、一般会員(看護職以外)5,000 円、学生会員(大学院生を除く)3,000 円、賛助会員 30,000 円より

NEWS LETTER-The Japanese Holistic Nursing Association, Vol.17, 2018.

日本ホリスティックナーシング研究会ニュースレター第 17 号

発行：日本ホリスティックナーシング研究会事務局 2018 年 3 月発行

本部：日本赤十字看護大学守田研究室内 〒150-0012 東京都渋谷区広尾 4-1-3

TEL：03-3409-0722 MAIL：info@jhna.jp URL：<http://www.jhna.jp>

ニュースレターに関するご意見ご感想は、本江 a.hongo@soei.ac.jp 相原 aihara@hcpro.jp までお寄せください。